

● 事業名

災害ボランティアステーション「むすぼら」

● 主催 災害科学・レジリエンス共創センター

● 実施内容

災害ボランティアステーション「むすぼら」は2024年度より幹部制から、プロジェクト毎に学生を集める「この指とまれ」方式での運営にしている。何かイベント毎に呼び掛けて、そのチームで運営するスタイルである。

2024年4月には、本学と連携している県立粉河高校の生徒2名が本学に来られ、むすぼらの学生が作成した「防災かるた」に関するレクチャーを行った。

9月には、2024年1月1日に発生した能登半島地震について、復旧・復興状況がどのようになっているのかを現場で学び、かつ被災地支援の活動を通じて、来るべき南海トラフ地震で和歌山はどのように備えておくべきかの知見を得ることを目的とした「能登半島地震スタディー&ボランティアツアー“見る・聞く・動く”」を企画した。しかし、能登に行く前日から降り続く大雨により「能登半島豪雨」が発生。残念ながら、企画を中止せざるを得なくなった。

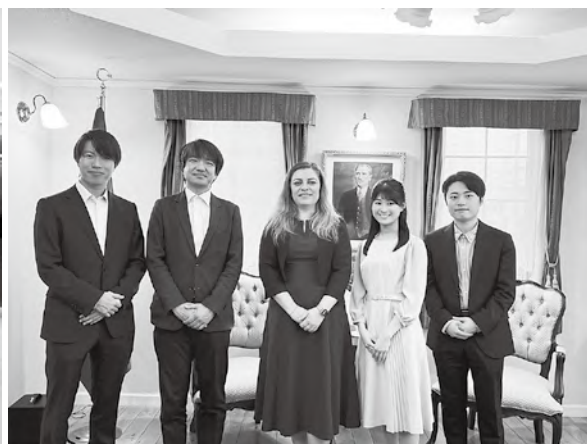
11月には学内で実施した「おもしろ科学まつり」に出展し、ペットボトルランタンづくり、新聞紙スリッパづくり、防災下敷きづくりを実施するとともに、12月には和歌山市内のみその商店街で行われた「おもしろ環境まつり」にも出展し防災かるたのイベントを実施した。

2025年1月には、和歌山県庁より米国人若手リーダーと和歌山大学生との“防災”に関する交流の提案があり、米国マイアミ大学学生との和歌山大学生の意見交換の機会をコーディネートした。「防災かるた」の体験を通じて、国によって異なる防災意識やシステムについて学ぶ機会となった。

3月には、在名古屋トルコ共和国総領事公邸にてダムラ・ギュミュシュカヤ総領事を表敬訪問した。これは2023年2月6日にトルコ南東部を震央として発生した地震に関する募金活動や2024年7月に実施した「地震被災者支援チャリティ・トルコフェス」の活動報告のためである。2023年度に一度、募金を在名古屋トルコ共和国総領事館持参しているが、その後継続して行った募金やトルコフェスでのチャリティについては別途トルコ共和国の緊急事態対策庁へ国際送金した。



防災かるたを通じた国際交流



むすぼらの元幹部とダムラ・ギュミュシュカヤ総領事

事業に関するお問い合わせ

災害科学・レジリエンス共創センター

E-mail : bousai@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>